

雲雀っ子

令和5年9月20日発行

ねばり強く やりぬく子 ・自分で考える
・仲間と助け合う
・最後までやりきる



前期児童会活動の締めくくり

「私たちの生活を支えてくださる方へのありがとう」

校長 奥村 美樹恵

今年度の児童会の合い言葉は「絆の木」。学校だより5月号でも紹介しましたように、「絆の木」に込められた願いは「根っこは各委員会。委員会が学校生活を支える。その委員会活動を通して皆が協力することで絆が生まれる。そうやって仲間との絆、先生や職員との絆、地域との絆を深めていきたい。」でした。

4月から各委員会が那加二っ子の生活をよりよくするために、様々な企画を試みてきました。少しでも給食の残さいを減らし、感謝の気持ちをもって頂くためにも、まずは時間を確保することが大切。そのためには、給食配膳を手際よく行うといいのではないかと考え給食委員会が全校にキャンペーンを企画したり、「やってみよう」「わかった」「できた」を一人一人が感じられるような学習の取組となるように、各学級が目当てを掲げ、全員で達成できるように呼び掛け合うよう、学習・生活委員会が全校にキャンペーンを企画したりしました。

そういった取組の成果として、「絆の木」に「できた」ことが沢山掲示されています。協力して生活をよりよくしていくことで、益々「絆」が深まっているようです。

前期児童会の締めくくりとして、子ども達の学校生活を支えてくださっている方の思いや子ども達が知らない努力を伝え、子ども達の相手に対する「感謝の気持ち」を育てる企画を行っています。サポーターの先生方、用務員さん、給食調理員さん、見まもり隊の方々…、子ども達が感謝を伝えたい方が沢山子ども達から出てきました。そこで代表運営委員がどんなお仕事をしているのか、どんな思いでお仕事をしているのか、インタビューに行きました。「みんなに楽しく、気持ちよく学校生活をしてもらえるように…」「みんなが仲良く楽しく生活できるように…」と、学校生活を支えてくださっている方の思いを聞かせていただき、動画にまとめました。

その動画を見た後、1年生の中村りょうたさんが昼休みに職員室にやってきました。そして、用務員の加藤さんと山下さんに「いつもお掃除をしてくれてありがとうございます」と挨拶をしていました。りょうたさんに聞くと、今までは名前も知らなかったから、なかなかありがとうが言えなかったけど、代表運営委員の動画を見て、ありがとうが伝えたくなったとのこと。名前を知って、思いを知って、「ありがとう」の気持ちが芽生えて、絆が生まれた瞬間でした。きっとりょうたさん以外にもそんな気持ちになった那加二っ子は多いことと思います。



「感謝の気持ちを伝えたい人は？」の質問に答える2年生



夢づくり講師さんへのインタビュー

雲雀っ子

令和5年9月 日発行

ねばり強く やりぬく子 ・自分で考える
・仲間と助け合う
・最後までやりきる



前期児童会活動の締めくくり

「私たちの生活を支えてくださる方へのありがとう」

校長 奥村 美樹恵

今年度の児童会の合い言葉は「絆の木」。学校だより5月号でも紹介しましたように、「絆の木」に込められた願いは「根っこは各委員会。委員会が学校生活を支える。その委員会活動を通して皆が協力することで絆が生まれる。そうやって仲間との絆、先生や職員との絆、地域との絆を深めていきたい。」でした。

4月から各委員会が那加二っ子の生活をよりよくするために、様々な企画を試みてきました。少しでも給食の残さいを減らし、感謝の気持ちをもって頂くためにも、まずは時間を確保することが大切。そのためには、給食配膳を手際よく行うといいのではないかと考え給食委員会が全校にキャンペーンを企画したり、「やってみよう」「わかった」「できた」を一人一人が感じられるような学習の取組となるように、各学級が目当てを掲げ、全員で達成できるよう呼び掛け合うよう、学習・生活委員会が全校にキャンペーンを企画したりしました。

そういった取組の成果として、「絆の木」に「できた」ことが沢山掲示されています。協力して生活をよりよくしていくことで、益々「絆」が深まっているようです。

前期児童会の締めくくりとして、子ども達の学校生活を支えてくださっている方の思いや子ども達が知らない努力を伝え、子ども達の相手に対する「感謝の気持ち」を育てる企画を行っています。サポーターの先生方、用務員さん、給食調理員さん、見まもり隊の方々…、子ども達が感謝を伝えたい方が沢山子ども達から出てきました。そこで代表運営委員がどんなお仕事をしているのか、どんな思いでお仕事をしているのか、インタビューに行きました。「みんなに楽しく、気持ちよく学校生活をしてもらえるように…」「みんなが仲良く楽しく生活できるように…」と、学校生活を支えてくださっている方の思いを聞かせていただき、動画にまとめました。

その動画を見た後、1年生の中村りょうたさんが昼休みに職員室にやってきました。そして、用務員の加藤さんと山下さんに「いつもお掃除をしてくれてありがとうございます」と挨拶をしていました。りょうたさんに聞くと、今までは名前も知らなかったから、なかなかありがとうが言えなかったけど、代表運営委員の動画を見て、ありがとうが伝えたくなったとのこと。名前を知って、思いを知って、「ありがとう」の気持ちが芽生えて、絆が生まれた瞬間でした。きっとりょうたさん以外にもそんな気持ちになった那加二っ子は多いことと思います。



「感謝の気持ちを伝えたい人は？」の質問に答える2年生



夢づくり講師さんへのインタビュー

雲雀っ子

令和5年9月 日発行

強く やりぬく子 ・自分で考える
・仲間と助け合う
・最後までやりきる



前期児童会活動の締めくくり

「私たちの生活を支えてくださる方へのありがとう」

校長 奥村 美樹恵

今年度の児童会の合い言葉は「絆の木」。学校だより5月号でも紹介しましたように、「絆の木」に込められた願いは「根っこは各委員会。委員会が学校生活を支える。その委員会活動を通して皆が協力することで絆が生まれる。そうやって仲間との絆、先生や職員との絆、地域との絆を深めていきたい。」でした。

4月から各委員会が那加二っ子の生活をよりよくするために、様々な企画を試みてきました。少しでも給食の残さいを減らし、感謝の気持ちをもって頂くためにも、まずは時間を確保することが大切。そのためには、給食配膳を手際よく行うといいのではないかと考え給食委員会が全校にキャンペーンを企画したり、「やってみよう」「わかった」「できた」を一人一人が感じられるような学習の取組となるように、各学級が目当てを掲げ、全員で達成できるように呼び掛け合うよう、学習・生活委員会が全校にキャンペーンを企画したりしました。

そういった取組の成果として、「絆の木」に「できた」ことが沢山掲示されています。協力して生活をよりよくしていくことで、益々「絆」が深まっているようです。

前期児童会の締めくくりとして、子ども達の学校生活を支えてくださっている方の思いや子ども達が知らない努力を伝え、子ども達の相手に対する「感謝の気持ち」を育てる企画を行っています。サポーターの先生方、用務員さん、給食調理員さん、見まもり隊の方々…、子ども達が感謝を伝えたい方が沢山子ども達から出てきました。そこで代表運営委員がどんなお仕事をしているのか、どんな思いでお仕事をしているのか、インタビューに行きました。「みんなに楽しく、気持ちよく学校生活をしてもらえるように…」「みんなが仲良く楽しく生活できるように…」と、学校生活を支えてくださっている方の思いを聞かせていただき、動画にまとめました。

その動画を見た後、1年生の中村りょうたさんが昼休みに職員室にやってきました。そして、用務員の加藤さんと山下さんに「いつもお掃除をしてくれてありがとうございます」と挨拶をしていました。りょうたさんに聞くと、今までは名前も知らなかったから、なかなかありがとうが言えなかったけど、代表運営委員の動画を見て、ありがとうが伝えたくなったとのこと。名前を知って、思いを知って、「ありがとう」の気持ちが芽生えて、絆が生まれた瞬間でした。きっとりょうたさん以外にもそんな気持ちになった那加二っ子は多いことと思います。



